

令和元年 環境学研究科の国際室・留学生相談室 活動報告

国際教育交流センター教育交流部門

CHUN Sohyun (ジョン ソヒョン)

令和元年、環境学研究科は適切な留学生支援を目的として設置された国際室 (International Office) を通じて、留学生交流・支援をより活発に行うために、多様な活動に取り組んで来た。その活動について簡潔に説明し、今後の本研究科の広報支援への計画について報告する。

1. 環境学研究科の国際室ホームページ作成

国際室として初めに着手した業務は、新入留学生へ向けたホームページの作成である。これは、卒業生や新入生からの指摘を反映し、「現存するオリエンテーションだけでは情報が不足しており、日本での生活について十分な情報を得られない。また既存のホームページからでは、学内での多様な交流会情報が探しにくい」などの問題点に対処することを目的としたものである。そして実際に、情報を必要とする学生を中心にメンバーとし、ホームページ作成に取り組んだ。年末年始に帰国できない留学生と留学生支援のチューター経験がある日本人学生が共に作業することにより、学生にとってより有益な情報が、わかりやすく見つけられるものができた。英語版は完成し、日本語版を現在作成中である。留学生が日本社会へよりスムーズに適應できるよう、効果的なイメージや便利な情報を取り入れたホームページを作成することが最終目標である。現在は試作段階ではあるが、学生や事務方からの好評価を受けている。今後、環境学研究科での多様な研究活動の魅力を知らせることや、海外協定校の情報を増やし、本研究科の広報にも貢献できるよう運営できることを目指している。

2. 「大学の世界展開力強化事業：ASEAN と日本を繋ぐグローバル・ソフトインフラ基礎人材育成プログラム」の一環として、ラオス国立大学と連携し短期 Exchange Program

2019年7月には、ラオス国立大学の大学院生2人を

受け入れ、本研究科での現地調査を本学学生と共同で実施したことにより、研究だけではなく、学生同士の交流や相互理解が更に促進された。また、11月には、本学学生7人（環境学5人、国際開発2人）をラオスへ派遣し、夏に行った日本での現地調査を通して得た知識や経験を有効に活用し、ラオスでの10日間の現地調査結果の発表をラオス国立大学院生および教員と行った。ラオス国立大学での調査発表については、ラオス国立大学教員や学生から高く評価され、今後のラオス国立大学学生と名古屋大学大学院生間の交流を促進することに貢献出来ると期待している。本研究科だけではなく、他研究科との合同での研究の楽しみを知り、学生がより積極的に研究活動を実践できるよう支援していきたいと考えている。

3. 全学留学生支援事業：四日市への環境問題体験 Study Tour/Workshop

“Thinking of Environment and Sustainability From the Past and Present of Yokkaichi City”

環境問題への関心が高い環境学研究科の特徴に合わせて、日本社会の歴史理解も含めたツアーを企画し、環境学研究科と工学研究科の学生から全学留学支援事業について深い感謝を頂いたので報告する。2019年12月7日日帰りバスを利用、参加学生総数：33名（環境学研究科25人、工学研究科6人、国際開発研究科2人）

日本社会と公害の歴史についての知識が不十分な留学生にとっても、実際の地域社会が直面した課題の事例を見学し、地域の人々が取り組んだ解決策を学ぶ貴重な経験となった。

- | | |
|-------------|--|
| 09:00-11:30 | 四日市公害と環境未来館: 公害歴史についてのレクチャー / 展示館見学 |
| 13:30-15:30 | 川越 LNG 火力発電所: 火力発電のシステムと運営について見学 / Q&A |
| 16:00-18:00 | 四日市ポートビルで学生交流及び |

Workshop・海テラス14で夜景観賞

4. 環境学研究科の留学生相談室運営

4-1) 環境学研究科の研究室内における多様な相談対応例：ひきこもり学生相談、研究室内のいじめ問題、動画撮影問題、SNSを使いたいじめ、研究室での孤立感、教育環境の違いによる悩み、自分の存在感がなくなる、経済問題等

4-2) 進路相談・就職活動：留学生の日本での就職希望が増えているが、就活の厳しさについての相談が急増し、キャリアサポート室の相談予約が難しい

修士・博士論文準備、卒業後の就職先とVISA変更関連、博士後期への進学準備相談等

4-3) 留学生とのコミュニケーションに難航している指導教員向けの留学生相談助言

文化の違いや接し方、コミュニケーションの問題、食文化、宗教文化等

5. 環境学研究科での交流会は年2回開催を企画

2019年6月21日は留学生交流会、2020年1月30日は就職相談会をそれぞれ行った。

学生から交流会についての感謝や、また小人数での定期的な交流会を増やして欲しいという要請を受け、1ヶ月1回の交流会を検討中である。特に、1月の就職相談会は、本学のキャリアサポートセンターの坂井先生、佐藤先生の協力を受け、気軽に就職活動の相談ができる交流会を行うことができた。本年度は、教員

と先輩との気軽な相談・交流会の時間を作り、在学生のネットワークを広げることを目的とする交流会を企画する予定である。本研究科やG30プログラムのリクルーティングのためにも、留学生のキャリアサポートは今後さらに力を入れるべきだと考える。また、留学生・日本人学生との壁、または国や研究室ごとの壁を無くし、様々な繋がりを作る交流会を増やすように企画している。

6. 今後企画予定の活動

－ 国際室ホームページについて、引き続き学生の意見を反映しながら修正していく。

－ 環境学研究科（G30）の広報のため、海外の大学を訪問し、リクルーティングを行うことを企画している。昨年度は韓国の大学への訪問を予定していたが延期になったため、今後はコロナの影響を見ながら、再調整をするか、あるいは他の大学への訪問を企画する予定である。

－ 全学留学生支援事業の経験から、留学生と日本地域社会との交流やその経験の重要性を理解し、より積極的に日本の地域コミュニティへの交流機会を増やすよう企画している。環境問題・農村地域の産業発展を一緒に考えられる体験プログラムや、四日市公害と環境未来館への2回目のスタディーツアーを検討している。

－ 日本人学生の海外留学サポーターや留学生との交流を増やすための英語での勉強会・交流会としてLanguage Showerなどを企画している。